



静岡 陸協 会報

第 7 号 (2009年 9月20日発行)

静岡陸上競技協会
〒420-8508
静岡市葵区鷹匠 1-14-31
吉野寿ビル 2 F
TEL・FAX 054-253-9801



ご挨拶と本年度 前期事業報告

理事長 和田隆保

永年に亘り静岡陸協に貢献されました
亀山敏郎前理事長の後任として四月より
理事長に就任いたしました。

六十余年の輝かしい歴史と伝統を持つ
静岡陸上競技協会、またそれを支えてこ
られた歴代の錚々たる理事長の皆様、そ
れらを思い本当に身が引き締まります。
若輩ではありますが誠心誠意尽くす所存
であります。どうか皆様のご理解ご協力
を賜り任期全うできますようよろしくお
願い申し上げます。

近年はこの県も力をつけなかなかか
前のような成績を上げられないのは皆様
ご承知の事と思います。もう一度現場を
見直し、指導や審判に当たられる陸協・
会員関係の皆様や選手の声に耳を傾け、
もう少し元気のある陸上静岡にしたいと
思います。幸いにして小学生、中学生に
は力のある競技者が数多く見受けられま

す。また本年は高校においても勢いを感じ
ます。大学、実業団と力を伸ばしやが
て日本の代表となるような競技者がたく
さん出て来てくれることを願ってやみま
せん。

また、強い競技者を育てるには安心し
て競技に集中できる環境が必要です。非
常に多くの競技会があり審判員の皆様に
はご苦労をおかけしますが、静岡陸協が
行う競技会は常に正確で円滑で事故の無
い安全なものであつて欲しいと思ひます。
陸協法人化の問題もこのところ急に浮
上してきた重要な案件であります。会員
の皆様一人ひとりがそれぞれの立場で考
え行動して頂ければ陸上静岡は元気にな
り発展していくことと信じております。

次に七月までの事業報告をします。
主催主管競技会は四月五日の日本平桜
マラソンから七月二十日の国体成年少年
予選会まで予定通り実施しました。
五月三日エコパで開催しました第25回
静岡国際陸上は富士山静岡空港開港記念
と第12回世界陸上選考会を兼ね、日本記
録2、世界陸上A標準突破4種目6名、

B標準突破3種目6名と大きな成果を上
げ、観客数も一万人を大きく越え大盛況
でありました。高校総体は五月二十九日
から三十一日までエコパで行い、三重県
での東海総体を経て延べ男子16種目31名
リレー2種目5チーム、女子13種目26名
リレー2種目3チームがインターハイへ
駒を進めました。また六月十四日草薙で
の小学生交流大会では、女子走幅跳に県
小学生新記録が出るなど、横浜での全国
大会、岐阜での東海大会を目指して熱戦
が繰り広げられました。中学生は草薙で
七月四日実施の中学選抜大会、十八日、
十九日の県中学通信陸上で延べ100名を越
える者が全国大会参加標準記録を破り、
八月に大分市で開催の全日中大会での活
躍が期待されます。64回を数えます静岡
陸上選手権は七月十一日十二日の二日間
草薙競技場で開催しました。昨年よりも
参加者が若干減っているのが気に掛かる
ところでもあります。また例年通り、平成
二十一年度陸協栄章表彰を行い、特別功
労者表彰の亀山敏郎氏、佐橋保氏をはじめ
め功労者表彰9名、日本記録樹立表彰1
名、優秀選手表彰2名、いずれも斉藤会
長より賞状、記念品を贈呈していただき
ました。同時に日本陸連S級審判の委嘱
も行いました。五月十三日県高校総体終
了後第一回常任委員会を開催いたしまし
た。本年度10回の記念大会となる市町村
駅伝は四月二十二日諮問委員会、五月十
一日組織委員会、第一回実行委員会、五月
中旬には東、中、西担当者説明会を開催
し十二月五日に向け順調に準備を進めて
おります。昨年斉藤会長より提案があり
ました新東名チャリティマラソン(仮称)

ですが、各方面への説明も終わり実行委
員会立ち上げへの最終段階に入っており
ます。以上であります。

最後に誠に残念なことではありますが、
深澤通之助前副会長が去る七月三日逝去
されました。平成元年より八期十六年
の長きに亘り理事長を務められ、その情
熱ある強い指導力をもって

平二年第3回TOTOスーパー国際陸上
平三年第4回TOTOスーパー国際陸上
同 第44回全国高校陸上競技選手権
平八年第23回全国中学陸上競技選手権
平十一年第83回日本陸上競技選手権
平十二年第1回静岡県市町村対抗駅伝
平十三年第22回全日本マスターズ陸上
平十五年第58回国民体育大会、
わかふじ国体 エコパにて開催

等静岡のみならず日本陸上界にとつても
大きな功績を残されました。七月七日桜
井孝次日本陸連名誉副会長、ご友人の小
掛照二日本陸連名誉副会長、斉藤斗志二
静岡陸協会長をはじめ、多数の日本陸連、
東海陸協、静岡陸協関係者やご友人等が
参列され盛大にご葬儀が行われまし
た。今まで静岡陸協に賜った幾多のご恩
に深く感謝し、心より哀悼の意を表しご
冥福をお祈り申し上げます。

前理事長 亀山敏郎 氏 日本陸連栄章の受賞

六月二十五日から二十八日まで、広島
市広域公園陸上競技場(ビッグアリーナ)
で第九十三回日本陸上競技選手権大会兼
世界陸上選手権代表選考会が開催された。

ハンマー投げの室伏選手、短距離の塚原・高平・福島・高木選手等が出場し活気ある大会となった。

最終日二十八日、日本陸上競技連盟は平成二十年度の栄章授与式を行ない本県の前理事長、亀山敏郎副会長が日本陸上界に功績があったとして「有功章」を受賞した。

受賞後、二十数年間の日本陸連評議員、静岡国際陸上、静岡県駅伝、静岡国体、等の努力が認められ、大変光栄に思っている」と語った。(広報委員会)

静岡陸協 本年度表彰者 敬称略

【特別功労者表彰】亀山敏郎(静岡市) 佐橋保(浜松市)

【功労者表彰】福良勝巳(富士市) 赤堀順一(静岡市) 草野康二(静岡市) 浜島栄司(沼津市) 神山心一(長泉町) 内村健一(牧之原市) 林和代(静岡市) 大石周平(掛川市) 高橋正(磐田市)

【日本記録樹立表彰】小田嶋怜美(当時浜松天竜中) 棒高跳び女子日本中学校記録 3.71

【優秀選手表彰】海老原有希(スズキ) 日本選手権女子やり投げ優勝、勝亦祐太(当時御殿場富士岡中) 全日本中学校選手権男子1500m、3000m優勝

【日本陸連S級審判委嘱者】松本大志(御殿場市) 藤原憲一(南伊豆町) 高木和彦(富士市) 勝又勝広(裾野市) 金刺靖雄(富士市) 竹川寿次(富士宮市) 旭義俊(御殿場市) 中西基(裾野市) 村田房司(焼津市) 古川栄一(磐田市)

(総務委員会)



県陸上略史(7) 中学校体育連盟(二)

参与 伊藤英一

- 昭和四十六年度 会長 渡辺光吉先生 (10代) 理事長 山本 学先生 (12代)
- 昭和四十七年度 理事長 市川督彦先生 (13代)
- 昭和五十年 会長 鈴木英徳先生 (11代)
- 昭和五十一年度 理事長 石上雅宏先生 (14代)
- 昭和五十三年度 会長 石田公夫先生 (12代)

- 昭和五十四年度 理事長 鶴見正義先生 (15代)
- 昭和五十五年 会長 山下好雄先生 (13代)
- 昭和五十七年度 理事長 渥美晴雄先生 (16代)
- 昭和六十年 会長 小野田金二先生 (14代) 理事長 高木勝彦先生 (17代)
- 昭和六十二年 会長 戸田 潔先生 (15代)
- 昭和六十三年 理事長 長田 進先生 (18代)
- 平成二年度 会長 赤塚照一先生 (16代) 理事長 山中良夫先生 (19代)
- 平成五年度 会長 田代守人先生 (17代) 理事長 末高義美先生 (20代)
- 平成七年度 会長 松村俊三先生 (18代)
- 平成九年度 会長 村木規量先生 (19代) 理事長 丸山好晴先生 (21代)
- 平成十一年度 会長 平岡彦三先生 (20代) 理事長 小澤 誠先生 (22代)
- 平成十三年度 会長 西条光洋先生 (21代) 理事長 齊藤明洋先生 (23代)
- 平成十五年 会長 三室 眞先生 (22代)
- 平成十七年度 会長 石野恵右先生 (23代)
- 平成十八年度 理事長 望月昭男先生 (24代)

○平成十九年度 会長 中山友男先生 (24代)

○平成二十一年度 理事長 杉山晴英先生 (25代)

◇ まとめ

昭和二十二年四月学制改革で新制中学校が発足し、物資不足の条件下でもスポーツ活動がスタートし、県教職員組合の文化部がこれにあたった。翌年昭和二十三年度において、東・中・西部にそれぞれ体育連合を組織化し地区大会を開催した。その翌年昭和二十四年三地区を統合した「静岡県中学校体育連合」が発足、現在の体育連盟のスタートとなった。

県陸上競技協会は中学校陸上の選手を育てる方式として東・中・西の三部対抗を企画運営し、男子監督、女子監督のもと草薙や東部国産電機のグラウンド等で開催し優秀選手を育成した。

歴代会長先生、理事長先生の連携のもとで全国有数の中体連として東海大会の運営に成果をあげ、全国大会の開催の力を持ち、平成十五年「全国中学校総合体育大会静岡県準備委員会」を発足させ、翌年実行委員会に改組、平成十七年度に大会を開催し多大な成果をあげた。

昭和四十六年(一九七一年)に大会スローガン「を定め運営の基本路線を確定し大会の教育的実効に当った。」

「ひとり、ひとりを大切に」であった。昭和五十八年には「みがき合う大会にしよう」とした。

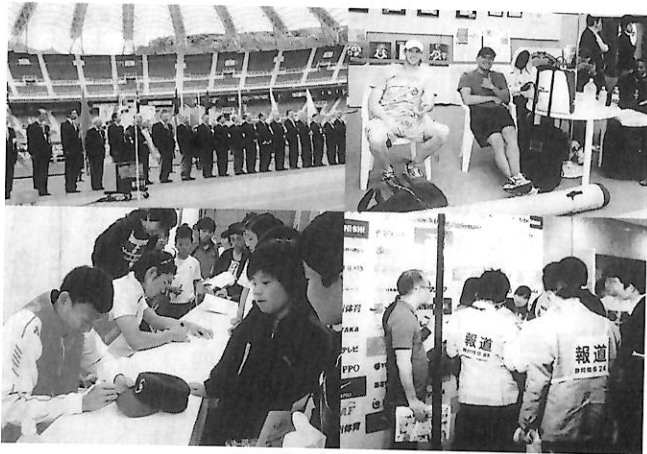
この努力目標のもと、充実発展をとげている県中体連に絶大なる敬意を表して更なる充実発展を祈念する次第である。

静岡国際陸上競技大会

(五月三日)

第二十五回大会（日本グランプリ第四戦・第十二回世界陸上大会代表選手選考会）が静岡エコパスタジアム（袋井市・愛野）で開催された。海外七カ国十五名・日本四十八名の招待選手と二百名を超す男女国内選手がエントリーした。今年八月の世界陸上ベルリン大会を控え、女子十五種目で熱戦が繰り広げられた。女子二百メートルでは福島千里（北海道ハイテクAC）選手が23秒14の日本新記録で優勝、また本県出身選手では、棒高跳びの鈴木崇文（東海大学）選手の二連覇と同種目、笹瀬弘樹（早稲田大学）選手が第二位入賞を果たした。

（広報・報道）



全国小学生リレー交流県選考会

兼（六月十四日）

東海小学生リレー競走県選考会

第二十五回全国交流大会予選・第二十六回東海小学生リレー予選大会が静岡草薙陸上競技場で開催された。六年女子走り幅跳びでは浜松河輪ACの天城帆乃香選手が最終六回目に5メートル21の県小学生新記録で優勝し、全国大会出場権を得た。また六年男子百メートルは向い風四・三メートルのなか浜北ACの小島涼也選手が13秒38で優勝した。リレー関係は五、六年男子四×百メートルR、河輪ACチーム、同種目女子は裾野陸上教室チームがそれぞれ優勝した。

（広報委員会）

県中学選抜・通信陸上競技大会

○第二十四回県中学選抜大会兼国体県予選大会が、七月四日県営草薙陸上競技場で開催、男女20種目の決勝を行なった。男子二百メートルでは伊豆修善寺中学の日吉克実選手が県中学記録を実に二十三年ぶりに更新する21秒71で優勝。また女子千五百メートルでは、静岡籠上中学の木村友香選手が、4分26秒89で昨年に引き続き二連勝した。



なお今大会標準記録突破者、男子は延べ29人、女子は同40人は八月の全日本中学生陸上選手権の出場権を獲得した。



○第五十五回全日本中学校通信陸上静岡大会が七月十八、十九日県営草薙陸上競技場で開催された。なお今大会は第六十二回県中総体陸上競技の部も兼ね、男女二日間で三十二種目の決勝を行なった。学校対抗成績は第一位浜松天竜41点、第二位御殿場富士岡25点、第三位磐田竜洋21点を獲得。また全国大会標準記録突破者も男子18人、女子15人が新たに出場権を得た。

（広報委員会）



高校総体（県・東海）

○県大会（五月二十九、三十一日）
県高校総体がエコパスタジアムで開催された。一日目、女子四百メートルで東海大翔洋の鈴木咲子選手が二十五年ぶりに大会記録（55秒35）を更新、また女子千五百メートルでは浜北西の前島彩伽選手が大会新（4分29秒81）でもって優勝した。二日目、女子四百メートル障害は沼津西の佐野有理圭選手が60秒83の大会新で優勝。三日目、女子やり投げで袋井の金原莉沙選手が48メートル37の東海高校新をマークして優勝した。

○東海大会（六月十九、二十一日）
三重県伊勢市、県営総合陸上競技場で

開催された。今大会、各種目決勝上位六人が全国高校総体出場となる。本県選手の名な活躍ぶりは次のとおりである。

・野崎瑠璃(静岡市商) 女子走り幅跳び、記録5メートル54

・渡辺明日香(静岡市商) 女子四百メートル、記録56秒31

・伊藤有可(日大三島) 女子砲丸投げ、記録13メートル34

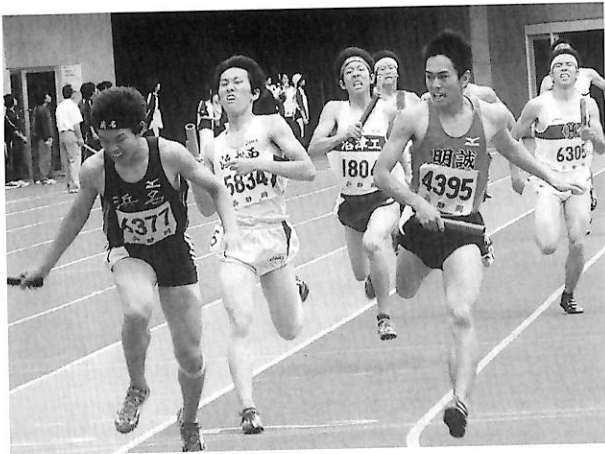
・飯塚翔太(藤枝明誠) 男子百メートル、記録10秒54・二百メートル、記録21秒22

・東海林拓也(吉原商) 男子四百メートル障害、記録52秒05

・佐野有理圭(沼津市) 女子四百メートル障害、記録61秒06

・影山湧亮(浜松市立) 男子棒高跳び、記録4メートル90

(広報委員会)



県陸上競技選手権大会

(七月十一〜十二日)

本県最高レベルである、第六十四回静岡県選手権大会(兼 第五十二回東海選手権予選会・兼 第六十四回国民体育大会予選会)が静岡草薙陸上競技場で開催された。一日目男女十九種目・二日目男女二十種目の決勝を行なった。今回注目選手は、男子は東海大翔洋高校一年の松原奨(男子走り幅跳び)選手。自己ベストを十二センチ更新する7メートル40を記録した。高校生になり短距離練習の効果もでてきたようだ。全国大会での活躍を期待したい。また女子では静岡籠上中学三年の木村友香(女子千五百メートル)選手が高校生を抑えて初優勝した。レースは序盤から飛び出し、後半も快調に走りそのままゴール。記録は4分30秒82。全日中では頂点を目指す。

(広報委員会)



第十回記念県市町村駅伝 競走大会準備順調に進む

十二月五日開催の大会に向けて順調に進んでいる。

静岡新聞社・SBS、駅伝事務局長もこの四月より陸協役員の子松氏から内田氏に変わりました。

今年は三十七市町、四十一チームで熱戦が展開され、先日チーム関係者によってスタート位置が決定した。

第10回 県市町村対抗駅伝競走スタート位置

1列目	2列目	3列目
三島市	菊川市	小山町
南伊豆町	伊豆市	裾野市
静岡市清水	長泉町	伊東市
下田市	御前崎市	御殿場市
河津町	島田市	磐田市
焼津市	浜松市北部	新居町
静岡市静岡B	函南町	浜松市中央
西伊豆町	富士市	川根本町
藤枝市	東伊豆町	富士宮市
掛川市	芝川町	浜松市西部
森町	静岡市静岡A	牧之原市
袋井市	吉田町	湖西市
熱海市	沼津市	清水町
伊豆の国市	松崎町	

(駅伝事務局)



ウォーキング大会開催推進情報

(静新記事より)

今年九月から二〇一二年三月の間に全市区町村でウォーキング大会の開催を目指す「健やか 爽やか ウォーク一八〇」歩いてニッポンを元気に「運動の中央実行委員会が、八月六日東京都内で都道府県向けの説明会を開いた。日本ウォーキング協会、健康・体力づくり事業団、全国地方新聞社連合会、共同通信社で構成。活動の一つとして、「子どもたちを元気にする歩育」を基本理念に、自然の中を楽しんで歩く活動の推進を呼び掛けている。

地域陸協主管マラソン大会実現

二〇〇九年十一月一日、富士山静岡空港開港記念、第一回はまだ大井川フルマラソンinリバティを開催。コースは、島田市役所前をスタートし、大井川マラソンコースリバティ経由、島田市陸上競技場ゴールの四二・二九五キロメートル。選手の制限時間は七時間、スペシャルゲストとして、二〇〇四年アテネ五輪金メダリストの野口みずき選手を迎える。

(実行委員会)

陸連情報

日本陸上競技連盟は八月四日、来年から全国都道府県駅伝大会優勝チーム、男子は(広島)天皇杯・女子(京都)は皇后杯を授与されることになったと発表した。関係者はさらに格式ある大会として発展させたいと抱負を述べていた。

(広報・報道)

世界陸上代表選手、結団式

八月五日、東京都内で結団式が行われた。今回のベルリン大会選手団は、監督に日本陸連(強化委員長)の高野進氏、選手団は選手57人補欠2人・役員・スタッフ総勢102人、陸連の海外派遣最高の人数であることを発表した。

本県からは、スズキの男子やり投げに村上幸史選手(三回目)・女子やり投げに海老原有希選手(初出場)・東海大学男子棒高跳びに鈴木崇文選手(初出場)が出場。各選手とも壮行会ではベストを尽くすと誓った。

この会報、第七号が発行される頃にはすでに結果も出ていることでしょう。楽しみにします。

(広報・報道)

平成二十一年度 第一回 県陸協理事会・専門委員長会議 (第六十四回国体選手選考会)

八月十三日、県体育協会大会議室に於いて開催された。斉藤会長の挨拶・和田理事長の前期事業報告に続いて、以下の議事・報告事項がなされた。

○ 議 事 事 項

- 一、第六十四回国体体育大会静岡県選手団の選考について
 - 二、平成二十年度、強化委員会決算報告について
 - 三、第二十六回、静岡国際陸上大会開催会場について
 - 四、新東名開通記念チャリティマラソン(仮称)について
 - 五、平成二十二年度、競技会開催日程第一次案の提示について
- 報 告 事 項
- 一、平成二十一年度、静岡陸上競技協会各栄章受賞者について
 - 二、全国小学生交流大会・東海小学生リレー競走大会選手団について
 - 三、その他



TOPICS 世界陸上

ヤリ投げ 銅メダル

記録 82m97

ベルリンの空で大アーチ

村上幸史選手

—スズキ所属—



(電送TBS)



(静新)

クラブチーム紹介「清水AC」

憧れの「夢・実現」 大舞台へジャンプ

静岡市清水区内を拠点に創部三十三年を迎えるクラブチーム。関係スタッフの熱意ある指導が実をむすび「三輪の花」が咲いた。

今回、初めて全国大会に三名の選手を送り出した。現在同クラブには小学生から高校生、一般までが所属している。

クラブ代表者・指導者でもある片平正廣氏は陸上競技をとおして子ども達の夢実現の協力をし、指導・運営に当たってきた。この夏、初めての快挙を大変嬉しく思っていると同氏は語った。

全国大会出場者

- 松本一希(清水高部小学校六年)
- 全国小学生交流大会、男子走り高跳び
- 岡田千春(清水第七中学校二年)
- 全日中選手権大会、女子走り高跳び
- 三輪真琳(静岡雙葉高等学校三年)
- 全国高校総体、女子走り高跳び

今後、一人でも多く全国大会を目標に素晴らしい選手の育成を更に期待したい。
(広報委員会)

お知らせ

陸協の公認審判員になりませんか。会員の皆様「声かけ」をよろしくお願いたします。
(事務局)

編集後記

会報第七号、平成二十一年度前期号です。広報委員会も本年度から委員を増やし、編集関係の担当も設置し、進めています。県陸協主催関係の大会も順調に消化し、この調子で後期に中継したいと思えます。また今年八月に、世界陸上選手権ベルリン大会が開催、本県出身選手の活躍も期待しているところです。皆様からの情報もよろしくお願いたします。

〔編集、広報委員会・陸協事務局〕

- 橋本美智夫(編集・文責)
- 水谷陽介(編集員)・片岡佳美(編集員)
- ・矢辺 進
- ・松井清和
- ・山口丈男
- ・内田健士
- ・田部井昭博

○写真

陸協・報道 大多和・橋本

(印刷 株式会社エスピー)

